

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092700010		
法人名	(有) 桜井商事		
事業所名	グループホーム月夜野の里		
所在地	群馬県利根郡みなかみ町真庭363		
自己評価作成日	平成30年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成30年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個々のニーズを把握し能力を発揮。その人らしさを表現できるようにしている。 個々の日差変動を把握し体力に応じた生活を支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前回実施の外部評価の結果を丁寧に検討し、利用者支援の改善に向け実践している。法人の母体である病院との連携のもと、家族・本人の意向を尊重し、看とりの支援の経験も積み重ねている。日々の支援では、利用者のペースに合わせた食事や移動の支援を基本に、耳もとでの声かけなど丁寧な対応がなされており、利用者ひとりひとりを尊重する姿勢がうかがえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを解かりやすく表現し見やすい位置に掲示。理念を共有し実施、契約時に説明している。	法人内の他の部所からの異動等、新しい職員には、グループホームの理念を管理者が説明している。職員の業務の慣れからおこりがちな言葉使いの乱れや、利用者本位の支援がされているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会に連絡を頂き応援に行っている。地域の育成会のお神輿が来てくれ庭でスイカ割りをしたり交流を図っている。回覧板を回してもらい地域交流を図っている。	毎年小学校の運動会に席を設けてもらっており、参加できる利用者は出向いている。祭りの際は、育成会のお神輿が、玄関前に来てくれるため、菓子やスイカをふるまい、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「こども110番の家」に加盟、協力体制を整えている。地域の方に事業所開放をし自由に使用していただけるように伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度偶数月に参加者で日程を決めて実施。区長・行政・老人会・家族・利用者・職員が参加。行事や研修報告などを通じて意見交換をしている。家族個々に通知を出し資料もお渡ししている。	行政担当者・地域代表者・家族代表者も参加する運営推進会議を年6回開催し、事業所報告や質疑応答を行っている。直近1年間で行政担当者の欠席が2回ある。家族には、来所時に会議録を渡している。	行政担当者には毎回参加してもらえよう働きかけていただきたい。タイムリーな学習会などを企画して、多くの家族の参加も検討してみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営会議の他に地域ケア会議やケアマネ会議・介護予防サーポーターに参加。職員が見守り支援員に登録。必要に応じて行政に相談。情報交換や協力を努めている。	管理者は、行政主催の会議に参加し、同業者間の交流を図っている。行政への相談はその都度行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成。身体拘束について共通の認識を持ち拘束を行わないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止の研修にも参加している。	身体拘束廃止マニュアルに基づき、支援を実践している。食事の際は、車イス利用者も可能な限り椅子に座り直す様支援している。外部研修に参加した職員を中心に学習会も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務を見守り、行き過ぎた言動があったときは見過ごさず、その都度指導するようにしている。社会情勢から話題を取り上げ、ケース会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を掲示している。現在は活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、運営規定について説明。疑問点については十分説明をして理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況を説明したり、家族の要望を伺い常にニーズに対応出来るように体制を整えている。	家族の要望は、面会時や介護計画の説明時、訪問の際に確認している。利用者の生活の様子や表情を伝え、意見を出してもらえよう努めている。	家族や利用者からの要望は、現在は口頭での報告とのことだが、記録に残し、確認できるようにしてはいかがか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回のケース会議の中で意見交換を行い随時相談にも応じ、情報収集を行っている。	カンファレンス・連絡事項の確認も含め、月2回定例会議をおこなっている。会議の中や日常的に、職員の運営に関する意見や勤務希望も、随時受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握するように努めている。リクエストを100%勤務表に取り入れ、リフレッシュ出来るよう有給休暇が取りやすいように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数と実績、個々の能力に応じた研修に参加。職員のニーズも取り入れ研修に参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域拡大ケア会議研修の参加を通して質の向上に努めている。地域高齢者支援ネットワークのメンバーに登録もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や空き室のある時のお試し利用等している。生活歴、家族、ケアマネ等からの情報を共有。本人の要望を把握し柔軟な対応が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、入所申し込み時に家族からの要望、困っている事をじっくり傾聴し課題解決出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、基本情報、事前調査により本人の必要としている支援を見極め、現在の施設状況を説明納得して頂いたうえで申し込み手続きをして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の立場に立ち、どんな言葉にも傾聴の姿勢で能力を発揮できるように配慮し感謝の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月夜野の里通信や面会時に行事参加への協力依頼をしている。季節ごとの衣類の差し替えや外来受診の付き添い等協力して頂いている。家族との外出等の要望にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用に来ている友人との交流。近隣のショッピングセンターや散髪、行事等の外出時馴染みの方との交流を図る事が出来ている。	建物1階のデイサービス利用者との交流や、ショッピングセンターへの買い物の際などに、馴染みの人との交流を図っている。裁縫など、昔から続けている習慣の継続ができるよう個別支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で状況に応じたコミュニケーションや交流が図れるように支援。レクリエーション時は個々の希望を取り入れて参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活環境が変化する事で生じる不安感を傾聴、不安が軽減できるように対応。退所後も家族の訪問を大切に相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	正月に一年の抱負を書いたり、七夕で短冊に願い事を書いてもらっている。日々の会話の中から意向を把握するように努めている。困難な場合は家族と相談している。	正月には一年の抱負を、七夕には願い事を短冊に書いたり、日常的な希望もその場で受け止めるよう努め、意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を共有し得意な事、趣味、馴染みの関係を把握し生活の中に取り入れている。本人の使用していた品物を持って来て下さるよう家族に伝え持ってきていていいたいくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望を伺いながら食器拭き、片付け、洗濯物畳、塗り絵、読書や新聞など個々の能力と体力に応じた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に伺い、職員と話しあいながら一人一人にあった介護計画を作成している。三ヶ月に一度カンファレンス、毎月モニタリングを実施し必要に応じて介護計画書を見直している。	家族からの要望を確認し、毎月モニタリングを行っている。カンファレンス時の意見、モニタリングを参考に、介護計画の見直しを3ヶ月毎に行い、現状に即した計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて記録、日々の状況を観察、記録し情報を共有。必要に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅近くへの外出。馴染みの場所へ散歩。理美容の利用。買物、外食など家族と相談しながら希望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の認知症カフェの催し物の情報を収集。参加出来る催し物に参加。文化祭の発表・展示品の鑑賞に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望の医療機関を伺い、主治医に受診できるようにしている。緊急時に協力病院を受診する事は家族から了承が得られている。家族の希望に応じて歯科往診もしている。必要に応じて他の医療機関でも受診し付き添いもしている。	入居時に説明し、利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。法人母体が病院であり、婦人科以外の科の受診は希望により可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状況、変化状況を看護師に報告し相談の上受診。受診後の様子も看護師に報告し情報を共有しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況を説明。認知症による行動障害の様子も説明。早期から安心して治療を受けられるように支援。精神的に安定が図れない時は医師と相談、病院と連携を保ちながら安心して治療に専念できる環境で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や終末期の対応について家族・本人に説明。医師より入院の指示が出るまで協力病院、デイサービスの看護師とも連携を図り協力を得ながら慣れた環境で生活が継続出来るように取り組んでいる。看取りの体制を整えている。	家族・利用者の意向を尊重した上で、協力医・訪問看護ステーションと連携を図りながら、終末期に向けた看とりの支援も段階的に家族の希望を確認しながら、実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生状況を把握。バイタル測定、身体上の変化を捉え初期対応が出来るように看護師より指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施。近隣者の協力体制も得られている。また、協力病院からの協力体制も整っている。	昨年度は、昼想定避難訓練を2回実施(消防署の立ちあい1回)。今年度夜間想定も含め2回の訓練を計画している。3日分のα米・水等を備蓄している。	建物の2階がグループホームのため、スムーズな避難誘導ができるよう、消防署からのアドバイスを参考に自主訓練を重ねていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄対応時など羞恥心やプライバシーに配慮。名前を呼ぶ時等一人一人の人格を尊重した声掛けを行っている。	入浴や排泄時はもちろん、食事の際にも利用者ひとりひとりに合わせ、声のトーンもおさえた丁寧な声かけがなされている。呼称についても管理者は、注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が強制的にならないように周知徹底している。本人が思いや希望を表現し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、その人らしく生活して頂けるように個々の状況や意向に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容・整髪等を行い、入浴時に髭剃り等を行えるようにしている。入浴時に衣類を選んで頂いたり、外出時に本人の気に入った服を着用してもらったりお化粧をして身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望により火・金の朝食をパン食にしている。楽しみ食時希望のメニューを伺い、買い物も一緒にしている。職員と食卓を囲み、後片付けも一緒に行っている。15時の飲み物の希望を伺い提供している。	パン食の時でも希望者には米飯も提供できる。週に1度のお楽しみ食は、買い物から利用者と一緒に準備する。季節感のある献立、誕生日会での好みの料理などメニューにとり入れ、職員も一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等個々の一覧表に記入し把握している。声掛け、促し、食事を小分けにする等の工夫をし本人の持っている能力を活用できるように支援している。本人のペースで摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内に食物残渣がないか確認。声掛け、見守りを行い本人の能力が引き出せるように口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録。排泄のリズムを確認しながら誘導。羞恥心に配慮しながら本人の希望にも沿っている。排泄のサインを見逃さないようにしている。布の下着を使用している。	排泄支援は定時に限らず、各々状況にあわせ支援し、記録に残している。昼間はトイレでの排泄を基本としている。排泄用品は、居室のトイレに用意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜(食物繊維が豊富なもの)を中心としたメニューを取り入れている。10時の給茶時にはヨーグルトを提供。毎朝体操や歩行練習を行っている。排泄観察を行い医師に相談し薬を処方している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	精神的、身体的な体調観察を行い本人の希望に添えるように支援している。希望により毎日入浴体制を整えている。	日曜日以外は、入浴支援ができる体制である。希望で連日入浴している利用者もいる。清拭・陰洗、主治医の指示で1日おきに足浴している利用者もいる。好みのシャンプーも使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の天候を観察、外気浴をしながら屋外食を楽しめる機会を設けている。希望者には昼食後30分から一時間の休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を読み理解を深める。毎日バイタル測定を行い健康状態を把握し変化に応じて主治医に連絡し受診。内服時、名前と本人確認を行い誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量、お盆や食器拭き等本人の能力に応じて役割を果たしている。誕生日等には本人の嗜好に合わせて外食している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族、本人の希望に応じて外食や外泊に出かけている。	4月～11月は、毎月外出行事を計画し、花見やくだものがり等に出かけている。週に1度はショッピングセンターへ買い物に行く。毎月外泊する利用者もいる。	事業所としては、日常的に外気にふれる時間を持ちたいと思っている。庭の花を見に外に出る時間を気軽に取り入れてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では家族の意向もあり、所持金は持っていないが、買い物にはお金を渡し支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でメモ用紙に電話番号を記載し家族に電話している方もいる。自ら電話を掛ける事はないが家族から来た電話には出ている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り季節感を取り入れている。季節に合わせてちぎり絵や貼り絵等を作成し掲示している。	共用空間には大きなカレンダーが、廊下には行事や食事の写真が掲示されている。テーブルの配置にも工夫がみられ、いくつかに分かれていることで周囲を気にすることなく食事が楽しめる。事業所内は清潔で気になる臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下空間に椅子を置いて一人になれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に自宅で使用していた馴染みの品を持ってきて頂くようお願いし慣れた生活が保てるようにしている。	ベット・床頭台・エアコン・トイレが居室に完備されている。洋服かけ・テレビ・タンス・家族写真など個人の好みの物を揃えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように表札の高さの工夫。トイレ、洗面台等分かりやすく表示している。		